
救命し得た有機リン中毒の一例

鈴木一正、小浜丈夫*、木津典久**

公立角館総合病院泌尿器科、小浜泌尿器科クリニック*

秋田組合総合病院泌尿器科**

A Successful Treatment of Patient with Organophosphates poisoning

Kazumasa Suzuki, Takeo Kohama*, Norihisa Kizu**

Department of Urology, Kakunodate Public General Hospital,

Kohama Urologic Clinic*, Department of Urology, Akita General Hospital**

<はじめに>

有機リン中毒はパラコート中毒に比べると致死率は低いが、初期治療が遅れると救命できない場合も少なくない¹⁾。最近、自殺企図による有機リン中毒患者を、救命し得たので報告する。

<症例>

患者：54歳女性

主訴：嘔気、嘔吐

既往歴：32歳時、卵巣嚢腫の手術

平成15年からノイローゼ気味

現病歴：平成16年2月4日12時30分頃、家族の目前で自殺目的に、発作的にスミチオン60mlを飲んだ。家族の手配により、13時10分に当病院に救急搬送された。胃洗浄とパム(500mg)2Aが投与され内科に入院となった。

現症：体温36.6℃。血圧132/82mmHg、脈拍92回/分。意識清明。瞳孔2.5mm。筋力低下や筋痙攣なし。

入院時検査成績：

腎機能、肝機能正常。白血球数、CRP正常。CPK正常(コリンエステラーゼ不明)。胸部レントゲン写真、心電図正常。

治療経過：入院時からFOYと抗生物質の投与を開始し、入院日から3日間連続で血液吸着療法を行った。2月10日にはコリンエステラーゼが5まで低下したが、その後上昇し(図1)循環不全や呼吸不全を呈する²⁾こともなく、2月19日に退院した。

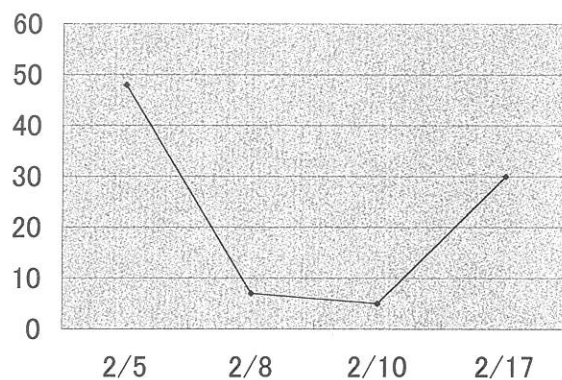


図1. コリンエステラーゼ (正常値185~431) の推移

<考察>

本症例では、自殺目的にもかかわらず患者が家族の面前でスミチオンを服用したことにより、服用後まもなく病院へ搬送されるとともに、中毒物質を簡単に特定できたため、初期治療を速やかに施行できた。

本症例では、初期治療に引き続き血液吸着を行った。有機リン中毒症例に対しては、症状を改善させるのに一般に血液吸着療法が有効であると考えられている¹⁾。しかし一方で、血液吸着による有機リンの除去効率が低いという報告やリバウンドによる再増悪例の報告が散見され、次第に行われなくなってきたようである³⁾。今後の検討課題としたい。

参 考 文 献

- 1) 石井孝典：薬物・毒物中毒と血液浄化法 (症例集) II 農薬(3)有機リン、臨床透析18: 1017-1021、2002
- 2) 柳沢信夫：有機リン中毒—農薬・サリンによる、自律神経2000、37(1): 8-14
- 3) 内藤裕史：有機リン系殺虫剤、中毒百科—事例・病態・治療、2001、230-248、南江堂、東京